

今度は「現ナマ配布役」の元官房長官秘書

「超大物政治評 送りつけてきた 120万円請求

がいるんだ、場所は僕の方で決める」と。赤坂にある高級料亭を指定され、日程まで決まった。すると途端にトーンが変わってきて、「いや、長官は忙しいからな、ちょっと顔出ししてもらっただけでいいんだよ」という。

会合の翌日、オヤジ（官房長官）に「何の話だったんですか」と聞いたら、「いや、わからんな。誰か向こうの知り合いらしき人がもう一人いたけど、おれはすぐ帰ったから、後は二人で適当にやってたんじゃないか」という。

おかしいなと思ってたら、後日、料亭から120万、130万円の請求書が回ってきた。ようはそれまでのツケを上乗せして回してるんだよ。後日料亭の女将に質したら、芸者をいっぱい上げて、小唄の会を延々やってるんだっていった。

元秘書はまた、田原総一郎氏にも「カネを渡した」と断言する。

お目にかかりたいって連絡すると、都ホテル東京を指定され、そのロビーで会った。これは長官からですと封筒を渡すと、いつもいいの、これ？ いいのかなあ」ってちょっと躊躇しながら、でも必ず受け取った。僕だけで4回は渡している。その頃、彼は100万円だったけどね。

総理や官房長官が政治評論家たちと会食するときは、必ず30万、50万円分ぐらいの「背広のお仕立て券」や商品券をお土産の中に一緒に入れる。新聞記者だと政治部長クラスで10万、20万円だった。いつだったか、記者たちを集めた懇談会を2回に分けてやるというところで、高島屋の20万円の商品券を20セット用意したことがあった。ところが政局かなんかで会がお流れになっちゃって、そのまますっかり忘れちゃった。10年くらいたってから事務所からその封筒が出てきて「これ何だ？」って。そのときは思い出せなかった。それだけ頻繁だったってことだ